

授業者のグループ学習に対するイメージ ーグループ学習イメージ尺度作成の試みー

○竹内利光 (河合塾)

近藤和也 (福島学院大学大学院)

キーワード：アクティブラーニング型授業、グループ学習、イメージ

目 的

学習者の能動的な学習を指向したアクティブラーニング型授業 (溝上, 2014; 松下, 2015) において、少人数でのグループ学習は重要な位置を占めている。授業者がグループ学習を授業に導入する際、グループ学習の意義や効果、具体的な指導法や技法に対する認識や理解は、授業を効果的に進める際に重要な要因になりうる。そこで本研究は、授業者がもつグループ学習に対するイメージを測定する尺度を作成することを目的とした。

方 法

(調査 1)

被調査者 教員採用試験対策講座を受講している大学生 (3, 4 年生) 87 名 (男性 31 名, 女性 56 名)。

質問紙 「集団・グループなどで学習させるときに考えられるメリットやデメリットを教員の視点から挙げてください」という教示文に対して、自由記述で回答を求めた。

(調査 2)

被調査者 (調査 1) と同じ講座を受講している大学生 (3, 4 年生), 大学院生 (修士 1 年, 博士 1 年) 146 名 (女性 74 名, 男性 72 名)。

質問紙

35 の質問項目からなる「暫定版グループ学習イメージ尺度」を使用した。質問項目は調査 1 で収集した自由記述、高旗ら (2010) を参考にして作成した。講義形式の一斉指導や個別指導と比較してグループ学習を行うとき、あなたが授業を実際に担当していることを想定して以下の質問に回答してください」という教示文に対して各項目について 5 段階評定で回答を求めた。

結 果

グループ学習イメージ尺度 (35 項目) について探索的因子分析 (主因子法, プロマックス回転) の結果、『学習活動や目標到達への困難さ』、『こども理解』、『子ども個人の学びと支援』、『子どもの成長への貢献』、『効率性』の 5 つの下位尺度を構成した (Table 1)。

またモデルの妥当性を検討するために、構造方程式モデルによる確認的因子分析を行ったところ、モデルの適合度指標は、GFI=.83, AGFI=.79, RMSEA=.07 であった。内的一貫性 (α 係数) は、.48 ~ .67 であった。

Table 1 グループ学習イメージ尺度の因子分析結果ならびに基礎統計量

質問項目	因子					h2	M	SD
	I	II	III	IV	V			
Ⅰ. 学習活動や目標到達への困難さ ($\alpha=.67$)								
15. 授業を教員の意図通りに進めるのが難しい	.56	.05	.14	.13	-.17	.36	3.94	0.80
33. 学習目標への到達が難しくなる	.56	-.19	.01	.07	.28	.17	2.83	0.78
19. 授業がなかなか進まない	.53	.02	.23	-.22	.03	.28	3.48	0.90
14. 教員が指示を出しづらい	.51	-.08	-.33	.07	.06	.49	3.34	0.93
23. 児童生徒の知識の習得ができるか不安	.49	.05	-.02	-.06	.05	.53	3.75	0.86
8. 教員の介入程度の判断が難しい	.44	.08	.01	.11	-.28	.39	4.21	0.78
Ⅱ. こども理解 ($\alpha=.61$)								
11. 教員が気づかなかったことに気づかされる	-.06	.69	.0	.18	-.02	.53	4.58	0.53
10. 子どもの意見を見る時間が増える	.06	.69	.04	-.06	-.05	.41	4.36	0.66
22. より多くの意見を引き出せる	-.13	.45	.08	.08	.03	.35	4.32	0.62
35. 人間関係への配慮が必要	.15	.41	-.05	-.13	-.01	.37	4.34	0.69
16. 子ども一人一人の評価が難しい	.34	.36	-.33	-.04	.0	.34	4.07	0.80
Ⅲ. 子ども個人の学びと支援 ($\alpha=.56$)								
2. 子ども一人一人の能力に応じた学習支援ができる	.0	.01	.63	-.01	-.11	.39	3.17	0.87
13. 子ども一人一人に目が行き届く	.13	.08	.57	.11	.24	.25	3.07	0.10
31. 子どもが自分で考える時間が与えられる	.07	-.04	.53	.0	-.29	.25	3.58	0.95
Ⅳ. 子どもの成長への貢献 ($\alpha=.59$)								
28. 児童生徒の個性の伸長に役立つ	.06	-.02	.07	.79	-.11	.24	3.74	0.81
29. 児童生徒の学習習慣の確立に寄与する	.02	-.07	.11	.57	.09	.18	3.06	0.80
27. 児童生徒の学習意欲を高めることができる	-.05	.18	-.14	.39	.02	.64	3.91	0.63
Ⅴ. 効率性 ($\alpha=.48$)								
20. 授業準備が楽である	.01	-.18	-.02	.02	.59	.41	1.88	0.74
25. 効率がよい	-.12	.09	-.23	.18	.45	.25	2.78	0.74
3. 授業中の教員の負担が軽い	.05	.01	-.08	-.11	.43	.45	2.53	0.98
12. 机間指導がしやすい	-.04	.32	.3	-.05	.37	.21	3.86	0.92